

研究課題名：ALK 陽性未分化大細胞リンパ腫における接着因子の発現およびその機能解析

研究概要：

ALK 陽性未分化大細胞リンパ腫（以下 ALK+ ALCL）はヒト悪性リンパ腫の一型である。最近、ALK+ALCL に P-selectin ligand のコア蛋白である P-selectin glycoprotein ligand-1 (以下 PSGL-1) が高発現していることが報告され、T細胞リンパ腫における新たな免疫チェックポイント阻害剤として期待されている。本研究では ALK+ALCL における PSGL-1 などの各種セレクトリン・セレクトリンリガンドや糖鎖修飾の関与を明らかにし、腫瘍細胞及びリンパ洞・血管内皮に発現する接着因子を同定する。さらにその機能解析を行い、特徴的な組織像の原因について解明する。PSGL-1 は既に免疫チェックポイント阻害剤として期待されている薬物であるが、さらにセレクトリン・セレクトリンリガンドの関係や糖鎖修飾の関与が明らかになれば、ALK+ALCL の診断や新たな治療法の確立に役立つと考えられる。

本研究は非侵襲型観察研究であり（患者へのあらたな負担なし）、後ろ向き研究である。ゲノム解析は含まれていない。

研究機関・研究者：

福井大学医学部・腫瘍病理学分野 福島万奈（准教授）

水戸済生会総合病院は既存試料・情報の提供のみを行う機関としてこの研究に参加する。

研究対象：

水戸済生会総合病院にて 2010.1.1 から 2023.4.1 までの間において生検がなされた悪性リンパ腫の中で ALK+ ALCL と診断された検体が対象である。患者への新たな負担は存在しない。

研究方法：

上記の保管されている病理標本（これは長期保存が義務づけられている）をもちいて、免疫染色をおこなう。（この染色および解析は福井医大で実施する）

対象患者の個人情報保護について：

研究対象検体はすべて匿名化されて研究に用いる。研究成果を専門学会・専門誌に発表する場合は、患者の個人情報は完全に保護される。

本研究への問い合わせ先：

水戸済生会総合病院・病理診断科・顧問医師 大谷明夫